

## 栽培の要点

1. 低樹高栽培の実施
2. 病虫害防除の徹底

## 栽培の手引き

### 1. 品種

#### (1) 奨励品種

|      | 早 生 | 中 生  | 晚 生   |
|------|-----|------|-------|
| 基幹品種 | 丹沢  | 伊吹   | 筑波、石鎚 |
| 補助品種 |     | ぼろたん | 利平    |
| 試作品種 |     |      | 美玖里   |

#### (2) 品種構成

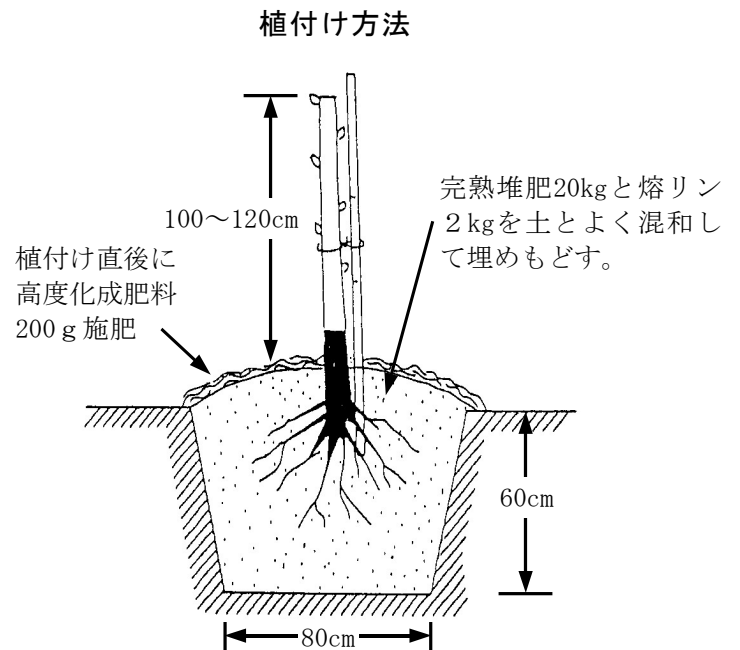
丹沢50%、伊吹10%、筑波20%、石鎚20%

### 2. 植え付け

#### (1) 植え付け方法

- ① 幅80～100cm、深さ50～60cmの溝を掘り、埋め戻し、その上に苗木を植え付ける。

- (2) 植栽距離は5.0×5.0mの正方形植えとする(40本/10a)



### 3. 受粉と生理落果

#### (1) 混植割合

- ① 自家受粉性が低いため開花期の合致した品種を混植する
- ② 受粉樹の距離は5～10mで効果が安定する

#### (2) 生理落果の原因と対策

- ① 早期落果（6月下旬～7月下旬）
  - ・ 花芽分化期からの栄養状態が悪く、雌花の発育不良
  - ・ 日照不足・着果過多により果実への養分供給が不足
  - ・ 病虫害の被害
- ② 後期落果（8月以降）
  - ・ 不受精によるものが多い
- ③ 防止方法
  - ・ 適正着果と日照量の確保が重要で、剪定時における適正結果母枝本数(25～30本を目安)の維持と低樹高化による受光体勢の改善

### 4. 収穫

#### (1) 収穫時期

毬が自然に落下する時期が完熟期であるが、品種によっては落果状況が以下のように異なる。

- ① 毬が裂開し果実が離脱落果する品種（石鎚、銀寄など）
- ② 毬の中に入ったまま落果する品種（筑波など）
- ③ 両方の性質を持つため品種（丹沢、伊吹、森早生など）

#### (2) 収穫時の留意点

- ① 収穫期の気温
  - ・ 早生種は果実温の低い午前中に収穫する
  - ・ 収穫した果実は長時間コンテナに入れておくと高温となり、著しく品質が低下するので速やかに出荷する。
- ② 果実の汚れ防止
  - ・ 雨後に収穫しなければならない場合は、布等で泥や水分を拭き取ってから出荷する。

#### (3) 粗選果の方法

病虫害果、裂果、未熟果、しわ果、腐敗果、コオロギ食害果等を取り除く。

### 5. 整枝剪定

#### (1) クリ樹の特性

- ① くりは陽光樹であり、日当たりの悪い個所は、枝が枯れ込みやすく、徒長枝が発生しにくい。
- ② 果実の結果習性は日当たりのよい、充実した結果母枝の先端部分に花芽を形成する

## (2) 変則主幹形からの低樹高仕立法

### ① 植栽時

苗木は樹高80cm~100cmの高さで、充実した芽を3芽以上残して切り返す。

### ② 2~4年生

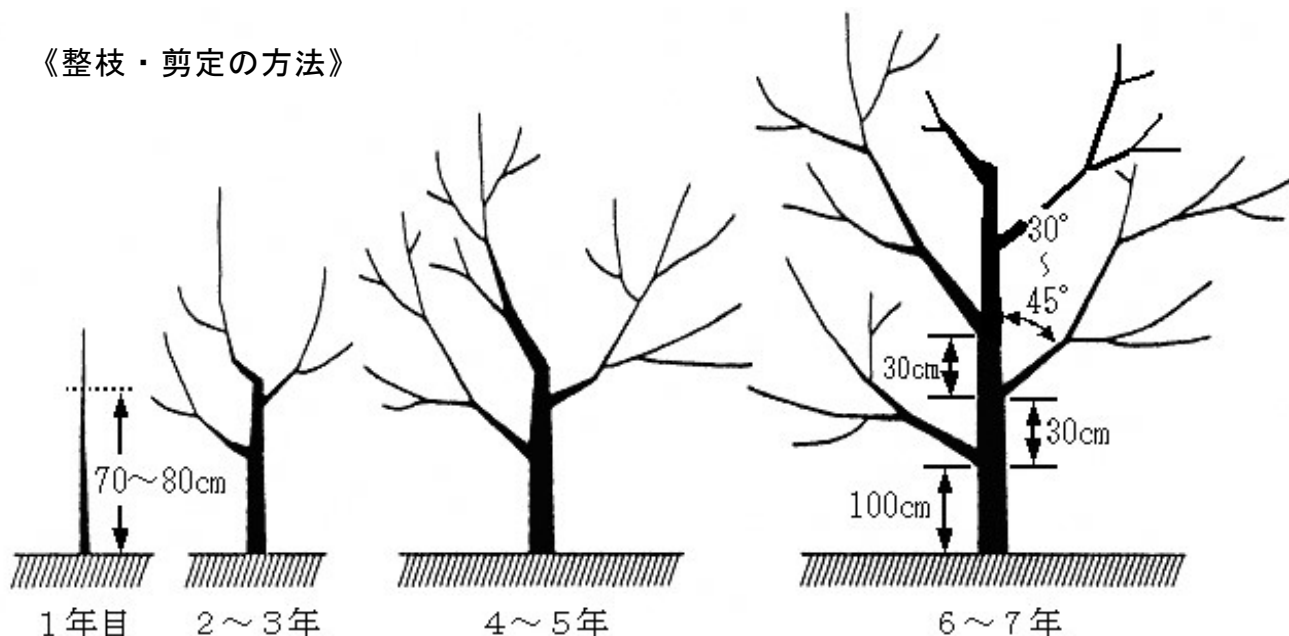
主幹形仕立てとし、主枝候補枝は分岐角度の広い枝を選び、主枝候補の間隔は車枝とならないよう30cm以上あける。

主幹の先端は強く切り返し、主枝候補枝は、やや弱めに切り返す。

### ③ 5年生以降の整枝剪定

- ・ 主枝候補枝が多くなり樹冠内部が混み合ってくるため、枝の方向、角度、上下の間隔が適正なものを選び主枝3~5本を育成する。
- ・ 樹齢が高くなるに従って徒長枝や発育枝が多くなるので、主枝候補以外の太枝は早めに間引く。
- ・ 心抜きは樹高が4~5mとなり、主枝がほぼ決定した段階で行う。方法は地上2m前後まで一挙に切り戻す。目標の主枝数は3本とし、着果させながら主枝の育成を図る。

### 《整枝・剪定の方法》



## 6. その他の管理対策

### (1) 風害対策

- ① 防風樹種はクロマツ、スギなどが良い。
- ② 防風林の設置方法
  - ・ くり樹の日照を阻害しない程度に、くりとの距離を確保する
  - ・ 早春、または晩秋に植栽し、株間は0.5~1.0m 間隔で、一条、または二条植えとする
  - ・ 防風林の高さは6~7m とする

[く り-4]

(2) 凍害対策

- ① 凍害を受けやすい地形での開園は避ける
- ・ くぼ地や谷間で土壌水分の多い園
  - ・ 南東に面した園
  - ・ 傾斜地の下部の園
  - ・ 排水の悪い園

【施肥基準】

(3～4年生)

(kg/10a)

| 肥料名         |       | 総量   | 基肥<br>(11月) | 実肥<br>(7月上旬) | 礼肥<br>(収穫終了直後) |
|-------------|-------|------|-------------|--------------|----------------|
| B B 6 6 6 号 |       | 40   | 40          |              |                |
| B B 5 5 0 号 |       | 40   |             | 20           | 20             |
| 成分量         | チ ッ ソ | 12.4 | 6.4         | 3.0          | 3.0            |
|             | リンサン  | 8.4  | 6.4         | 1.0          | 1.0            |
|             | カ リ   | 14.4 | 6.4         | 4.0          | 4.0            |

7年生以上

(kg/10a)

| 肥料名         |       | 総量   | 基肥<br>(11月) | 実肥<br>(7月上旬) | 礼肥<br>(収穫終了直後) |
|-------------|-------|------|-------------|--------------|----------------|
| B B 6 6 6 号 |       | 80   | 80          |              |                |
| B B 5 5 0 号 |       | 50   |             | 30           | 20             |
| 成分量         | チ ッ ソ | 20.3 | 12.8        | 4.5          | 3.0            |
|             | リンサン  | 15.3 | 12.8        | 1.5          | 1.0            |
|             | カ リ   | 22.8 | 12.8        | 6.0          | 4.0            |

【病虫害防除】

(令和5年1月20日 現在)

| 対象病虫害                            | 薬剤名        | 安全使用基準           |                   |                  | 備考               |
|----------------------------------|------------|------------------|-------------------|------------------|------------------|
|                                  |            | 希釈倍率等            | 収穫前日数<br>(～まで)    | 使用回数<br>(以内)     |                  |
| カイガラムシ類                          | マシン油乳剤95   | 12～14倍           | —                 | —                | 12～3月            |
| クリイガアブラムシ<br>モモノゴマダラノメイガ<br>クスサン | エルサン乳剤     | 1,000倍           | 14日               | 4回<br>(乳剤・粉剤の合計) | 200～<br>700L/10a |
| モモノゴマダラノメイガ<br>クスサン              | フロアブル      | 4,000倍           | 前日                | 2回               | 同上               |
| 実炭疽病                             | ベンレート水和剤   | 2,000～<br>3,000倍 | 裂果前(但し<br>収穫14日前) | 4回               |                  |
|                                  | ベルコートフロアブル | 1,000倍           | 14日               | 2回               |                  |
| クリシギゾウムシ                         | アディオン乳剤    | 2,000倍           | 14日               | 5回               |                  |
|                                  | アグロスリン水和剤  | 1,500～<br>3,000倍 | 7日                | 5回               |                  |
| カイガラムシ類                          | モスピラン顆粒水溶剤 | 4,000倍           | 7日                | 3回               | 樹幹部に<br>十分散布     |
| カミキリムシ類                          | トラサイドA乳剤   | 100～200倍         | 裂果前(但し<br>14日前)   | 1回               |                  |